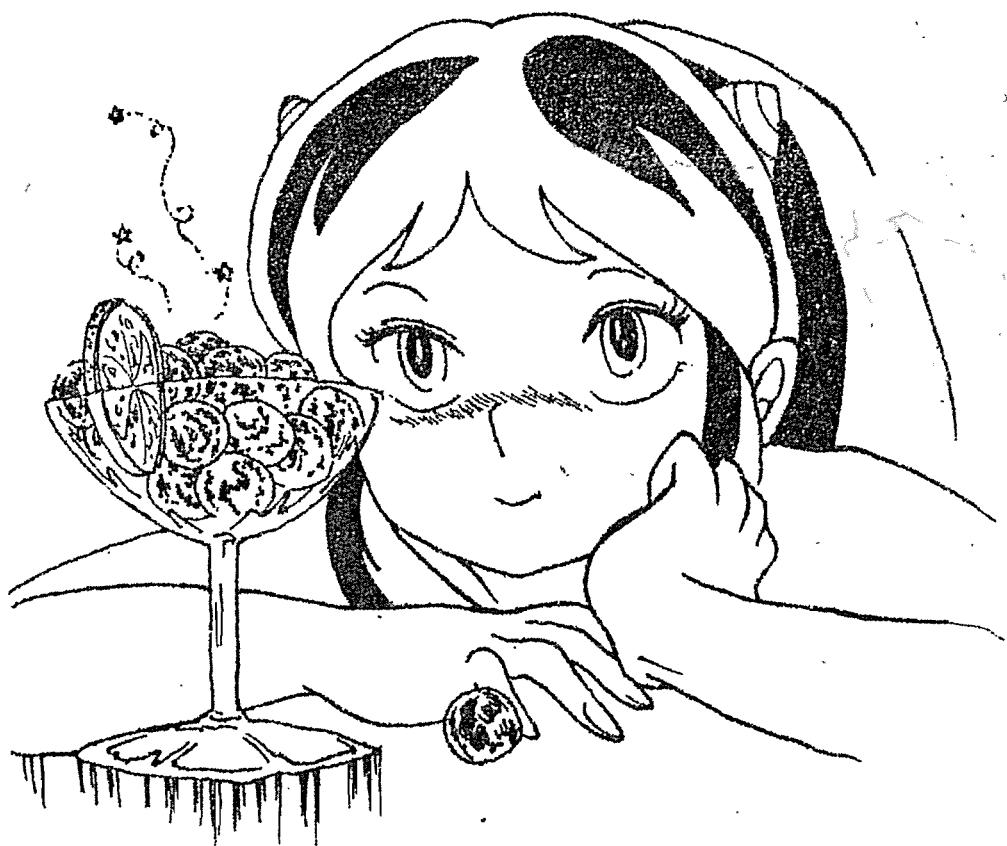


'83 人文学類企画 特別付録

IBARAKIAN-JAPANESE

茨和辞典

復刻・改訂版



スタッフ リスト

82年度 1月-1

1月-1長 島田繁行

小畠 澄子 笠原裕子 加藤真二

川口 美穂 奥石三七子 小林文雄

眞藤純行 関周一 豊島栄子

(五十音順)

83年度 1月-1

1月-1長 真藤純行

高田靖子 座間吉叶 瀬川和紀

須藤仁志 莫切秀也 山崎浩之

草川睦子 吉田益穂 加藤真二

(順不同)

+1



はじめに

昨年度好評であり、品切になつた『茨和辞典』を復刻しました。初版と二版の違う点は、五十音順に並べた事と、例文を少し書き換えた事、さらに付録を加えた事です。ただ同じものを出すのも能が無いので、特別講座なるものを作り、巻中にはばらまいてあります。これと、改変した例文ですが、編者に創作能力を感じいため、各種の書物から引用しております。もし初版を持っているなら、変えた所を探してみてください。尚、このパンフは、方言研究会によるもの一興でしょう。尚、このパンフは、方言研究会とは全く無関係です。方言研の行、たフィールドワーク及びそれに基づく資料等は 一切参考としておりません。方言研究会とは断じて関係ありません。よろしく。

【凡例】

あ

あからばら (名) うそ虚言のこと「あいつドイツ語……」

↑ ↑ ↑ ↑
① ② ③ ④

①:『茨城県方言集覽』(茨城教育協会 明治37年) 及び『全国方言資料』(日本放送協会 昭和42年)を参考に400語程度を収録しました。これは、昨年のものに準拠しております。一部に不相応な單語も入っています。

かもしだせんか、笑ってお許し下さい。

②：一応、品詞の分類です。ちょっと怪しいと思われるものから、誰が見ても変だというところのままで文献を信頼して全部写した昨年のものを写しました。当方では責任を負いません、絶対。そもそも学術的内容のヤシラではあります人との、飾りぐらいで思って下さい。

(名)名詞、(動)動詞、(形)形容詞 (副)副詞、(成)成句。

③：見出し語に相当する東京方言です。

④：例文 だと思つて読むとおきます。読んでいただければわかります。



前委員長



腹筋もなく

あ

あかっぶら (名) うそ、虚言のこと 「あいつドイツ語Aだ
たんだってこと」「あかっぶらニくと天国
にゅういけねえど」「なんもの天使とスズ
メにくれこやる」

あけづ (名) 蟻蛉 男 「あけづの命にはかねえもんだ」
女 「……しらあ…ゲッアエヒチモウル」

あニヨ (成) 不法、強欲 「一限にひたぢとー!! あニヨなこと
しゃがっ。許せぬえ」

あけぬえ (形) 物足らぬこと 「この例文はすいぶんあ
けぬえな」

あつこい (形) 厚い 「何とかしろよ、とのあつこい化粧」

あつたッペー (成) あ、たださうの意 「ああ、ここにロット
リングあつたッペー。知んねかお?
なくしたらば、とはエ山、とお」

あつづっぽー (成) いいかけしなこと 「テストひ玉たあ?
「ほとんどあつづっぽー」

あなた (名) 灰 「にゅにー! 原稿ひ玉ぬえだとお」
「あなたがあつたら入りこえ」

あペニペ (副) 反対 「あの、ゆめヒ花くだ"エイ」
「あペニペで可ぬ。されば」

あまこ (名) 婦女を卑下する語 「このあまこあっちエ行
(アキ)あまこ」 「ニッちさ来ふー、ニッちエ来ふー」

あんぐるかえる (動) あぶ向きになる 「はい、ちょとアング
ル変えよエホ、あんぐるかえ、こえ」

あんにゃー (名) 灰 「また仕事にあんにゃーあけやがっ。乙
「くど、えぱりやがっ。乙、学祭終ゆ、
たら見ころ!」

11

- 1かわい (形) 大玉い 「ひエルの炊飯器ヒヤクねえ。一升炊キ?」
- 1かくぱー (成) エコレカララ 「帰つてもいいな。」「山かくぱー。
パンフ間に合わなくともいいなら帰んな」
- 1かねー (成) 行かない 「一限、出るう?」「ふら。山かねー」
- 1くべー (成) 行こう 「ちょっとお茶の水くべー」「は、ヨリ
H書店と言つたらどうがさか」
- 1ぐべや (成) 行こう 「山ぐべや、山ぐべや、ハフエヨニコゼよ
- 1しけー (形) 貧困なこと 「一学園はなんどこんなに山しけー
だ!」「んじ、んだ、ベニヤなもんだ」
- 1たっぱち (名) 板片、「宿舎もスチームだけじゃコトナリな。」
山たっぱち集め玉乙燃也可べえ」
- 1ちやける (成) 意に合ひず気をもむこと 「近エんねえ方がいい
と。あいつ、山ちやけるから」
- 1っちょー (成) 行つてしもうこと 「急かねえと山っちょー」
- 1っちょー (成) 去れ 「そーたこと言うなら、エッエと松栄ハイツ
に山っちょー」
- 1っこん (成) 行つてこい 「よい、ドイツ語の時間だ、へ、土、
エと体芸棟コ山っこん」
- 1っこんべー (成) 行つてみよう 緊張 「おい、巨人阪神戦山べー
山べー山「阪神巨人戦だ」
- 1のげえー (成) いいのか 「みー山、山のげえー、言いつ
てやつと」
- 1まころ (副) 今頃 「ああ、天空山まころの星も山まころは
もう自慢んちへ帰つてペなみ」
「最近、寝不足でやらな高ニイフ」

3

いやだんべー (成) 忌山嫌うこと 「なみ いいだんべー
なみ……」 ラッセーナ。 いやだんべー

いんせい (成) 不用なこと 「へへ、大久保麻衣、二の矢王
といい食うかえちエット食いカケテゴイヒ
「ぶんぶんぶん、! いんせい!」

いんべー (成) 行こう 「いんべー大津 いんべー大津 勝
利でめでせ GoGoGo Go!」 「やつぱレ
のんねえよお」

う

ラえっかー (名) 上皮 「みかんのラえっかーはひとつ食べま
レう」

うちっニ (名) 一家近親 「ディスコいんべー」 「うちっニ
う、エクニ やつぱりいいゆえや」 「なみに。
モアモアモアなら ごーじエーぶ」

うちっやろ (動) 捨てる 「外国地図 どうしたの」 「エモ
山すうちっやった」

うっせえ (形) うるさい 「指が匂いぬ」 「うっせえ!」

うつぶし (形) うるさい 「色が黒いぬ」 「うつぶし」

うっせえ (形) うるさい 「足 短いぬ」 「う……」

うなう (動) 煙の工を返すことを 「今日 煙をうなう手伝い
でした。あみ工のにがいた。あみあみぬ……」

うらいだ (名) 天井 「うらいだに点をつけたら 天井だ」

うんにゃ (感) 拒否 「いい歳して、玄関先でお王王ニと
仲がいいぬるー」 「うんにゃ 私らどんな
仲がねえ」

うんら (名) 珍らのこと。 「うんら 帰んぬぬえ。話さぬ。」

え

えがい (形) 大珍のこと 「ニイフはえがい達物だ。本部棟にち
げ一ゆえ」

えーニヲ (副) キクさんのこと 「そのえーニヲあるかもほニミタの何だ?」
「... Dで可...」

えしニイ (形) 質の悪ニニと 学生 「えしニイ教室やのお」
大学 「えしニイ学生があ」

えっぽい (副) たぐさんの意 「いやあ腹えっぽい食った、さすが坊さん
気前がいい」

えび (名) 指のこと 「あなたが かんだ 小えびが いたいへ?」??

えんサオ (動) 動かすこと 1. 「ちよと二の机 えんサオくれ」
2. 「1000円貸してくれ」 ... がん

えんペー (成) 行こうの意 「たまには学校えんペー」
「どうせ文サに行くだけだっへ?」

お

おひひなんレエ (成) おひひなエイ 「本日開店不可んひ五山ひな」

おかぶ (名) 隆穂、「東風吹かば」 おかぶを刈りとる場所へ

おーニッた (成) 大慶だ 「デーロだっ!!」「ニリヤ おーニッた」
某氏「どうかあ? どう ひもあんめ」

おセーる (動) 教える 「ちよくら役場を行く道おセー下せえ」

おっかいかる (動) 寄りかかる 「女の子におかいかるもんひゆえ」

おゝとばす (動) 追い出す 「との蝶、外へおとばしちまえ」

- おはん (名) 夜間 「おはんひ可」 基礎「も、べん音、243。」
- おもつかねー (成) 思いつかない 「こんな例文なかなかおもつかねーだ」 山田
- おやらー (感) おやあや 「おやらー 島田さんひねーけ」
「どうとも!!」
- おうち (名) 我家 「今日は おうち畠種があるからせひ来てください」
- お山 (名) 一人称代名詞(女の子がつづく) 「お山はもう おまえのデーリンじゃないんだよ。女ふ可もの！」

十八

- かあべい (成) 置あう 「テキスト置いに来たのにねえなあ」
委員長「んー何もねえ、"りほん"置あべい」
- かあら (副) ついに 「あーBがついちゃった」 「あんなんか、
立派立派エエ」
- かけな可 (動) 他人の主張を拒否すること 「あいつは、
人のことかづけながらばかりだなあ」
- ザッそう (名) 前髪の伸びた頭髪の状態
A 「あいつの頭ザッソードナミ」
B 「いや、サッちゃんみてえだ」
- かっちゃん (名) かき裂くこと 「いい！痛っ! カッチャク
からきらいなんだよ！」
- がな (名) 所有の意 「二のミンキーモモの手提、誰んだ？」
「俺がだ。モモちゅわんに手エふれろぜ」
- かぶさ (名) 乱れ髪のこと 「おめえ ひんちゅーがぶさだ！」
「朝起きたままだからだあ、鏡持つてねーもん」
- かよっニ (名) 鏡の弓のこと 委員長「かよっニ最高だんベナ」

「かよニ? 岸本……?」

がんぎさか(名) A 「はやくけー、乙ヨウくわや」
B 「ながながなー、がんぎ三かあ、からよー」

がんちよ3りん(名) サフランを細く切、乙油で揚げたもの
「エ、がんちよ3りん、俺だ~~~すま

がんにん(名) ハガセリ頭のニと 「がんにんスタイルが、今
ナウイギーでわ代」

かんみ(名) 瞳のこと A 「部屋で蚊とり立いたんか」
B 「んーかんみがうろこくでいらんわが

三

きり正(動) 困ること 李員長「明日までに、二の仕事や、乙くれ。
「あ~。突然いわれと きり立たがお」

きレ2(副) 汗レ2の意 「エれあ、きレ2授業せぼんぬ。
「まよな。いつも眠、乙っけどなま」

きすな, た(成) 気絶するニと 「人間へ因えした犬見乙きすな
ユたんだっ2」

キ一だ(動) 寄すこと 「一夜繋けがきかねがったよー、ああ
キ一だ、キ一だ」

きぬ(名) 昨日の意 「きぬ、鬼怒川越えたのけ?」
「んだ、朽木つフヌ えれえ いつかだなあ、
一井の中の蛙 大海を知らず」

きびしょ(名) かかとのこと 「ニラ、うわばきのきびしょ
蹠印もんごわ」

キベた(名) 山村のこと 首都……キベた根性の猪
by 悪魔の辞書

キラッショ(成) ハラッシャーの意 「ニッカラ キラッショ

玉藻でも飲んで、たらあかべ。

チー³ル (形) 黄色いニと 坊丁矢「あら。チー³ル」とくら
んばだべ」
エくらんば→錫乳坊→Cherry!

<

<エ²ば(名) 草のニと 「おめえ。エ²ばフハとろど。」
「草生えゆぢま、たがよ。」

<エ²る(動) 濡れるニと 「たくほるい單だな。雨でエ²るでねーか!」

<だら(名) 疾患のニと 「お、おらもちエニれ」とが飯レ
か、ただ」「ものもら、といで。だらハ
んすぬえよ。」

<うちよーくん(名) 自分のために都合よく言うニと 「文化
の中心は橋本だべ」「うんにや。篠
城だ」「おねえら うちよーくん在が
んな。埼玉にきま、23, ヘヤ。」

<ど¹りー(形) むずかしいニと 「人ー今のが難²くど¹りー
問題だべたなあ、だれだ。樂勝なんぞ、たの。」

<どく(動) 小音をいう 「げあちゃん どくんだせん
う、立くなま」

<はさみる(動) ださみるの意 「自立じや そつねが出来た?」
観覧「ああ、おら!!、へんくはされちま、たよ。」

<れ³る(動) 遊うこと 四月...、慣れたらしい島波でウロウロし
てはる「あう、おめぐれちま、たか。」

けあー(形) 多いこと A「あの店は量が少なくて物足りねえや」
B「んだな、もっとけあーとこねえんか」
A「そらもう珍果^{チヤウ}ねえエ」

けいほくすき(動) 踏びろこと A「あいつ男のくせに真位色ねえもんに
先生にけいほくして人の」
B「…う、う。先生も災難せなあ」
A「た、正しかに…、それで最近体調がつづ
2人のかも知れんじよ」

けきけき(副) さっぱり、はりあい状様けた ということ
「はじめこそ習しき、たのに休講かや。けき
けきしくんなま」

けた(名) そ、子どもの意 「ほん、けたけたけ。けたけたけた…」
「ニホンヤマツエリ蝶身の奥底中継をわります。U.T.V」

げうそり(副) がうかり、「えー今年の学園祭中止?! げうそり…」
「不吉なこと言うだ! 許さん!!」

けやーる(名) 瞳のこと 「追跡の端にゃ^アうけえうけやーる
がいふんだと」「…それこれにすうじよ。食べよから」

けーエ(命) 食べよの意 「おみえ、朝食けー上! びっかとなれねえぞ」
「おら、河童にや食われたくなえ」

けんなましい(形) 差しいこと 「学園祭に娘女立派人だ!」
「ほんとか?!

二

ニビーど(名) 夫の姉妹 「おわのねえちゃん元気か?」「まーな。
うちへ来^アニビーどのがち言^アうかんな」

ニッギく(名) 息子のこと 「おれは子じみで内氣だから並んな
ニッギく^アきぬ! 並一たこともねえ」
「孝、香風裏…。(微妙な沈黙)」

ニシクラ、ほー(名) うそ T「ニシやろ! ニシクラ、ほーニロア!

誰もいわへぬえむ。

ニッくり(副) 固い物同士のぶれる音 S「だ」 T「ニッくりニッくり
音がしたっぺに……」「あありやな、なんだべ……」

ニッニ(名) 化物のこと T「ひやあ! ニッニが出たまー。」

ニーピンチエ(名) ハゲのこと T「なんだま、ニーピンチエはや
したひ山だま。」

ニムラ(名) 子供達の意 S「ニムラが見たら本当にニッニだと思うべ

ニムヨー(名) 少女のこと T「エミー、ニムヨー嫌いだつける」

ニモ(名) 人が悪いの意 O「ニのニモ! 14才以上は女2ねー。」

ニムニヤ(名) 今夜 S「わよった ゆおーた。とニヨニニヤ 飲みに
」
ニの後の悲劇を書く勇氣がない。

巻中特別講座 その1

いはらき語VSやまかく語

突然ですが、茨城と山形の対比を参考とさせていただきます。

他国との対比は、茨城語の特質を浮きたたせてくれる…かな。

ともかく、対応することばを入れかえて遊んでみましょう。山形入れて「おしゃれ」

茨城	山形	茨城	山形
あかばら	ず'ほ	けよ	あかれ
あまこ	へなこ	さいな	んぽち
いくべー	あべー	しつべ	すっぺ
いっちょい	んげは	ちんと	ぱっこ
いっそんべー	いっそんべー	あすいた	せった
うっちゃる	なぐる	ばっぽ	ばんつあ
うんにゃ	んね	やっこい	やっこい
かあへい	かうべ	やだんぼ	やんだ
きぬ	きんな		
けやーる	ひっき		

なお、茨城と山形や何の関係があるかと思う方もおられることがあります。
実は関係あるのです。山形は、あの、茨城の美人を2人つなげて作った佐竹氏の移住地
秋田のところなのです。あ、とこの人、僕ったでよう。今、笑った。あなた。何かおしゃれ

（次頁へ）

いきせんか? どうぞ。山形にはあれがあつたのです。この前、火車の
あつた、酒田。あとこちらに、米を運ぶ航船の始発港が。山形は交通の要
地なのです。それにあそこには出羽三山とか福山(こひる貴義だいじ)とか、傳
説者の好きな山があつて、山伏が通つてゐる所がある! ……かな。さて、秋田に移
った茨城のことばが山形に伝わつてゐる可能性だってないわけないのです。
(決してあるとはいひません)本文より解説が長いのは、穴理の繋ぎはありません。

人文学類企画 総合宣伝

『黄昏の黄門』号外版 学園祭当日の日程

ドキュメンタリー 笠波	10/8 10/10	13:00~14:00 10:30~11:30	1C210 1C210
茨城語劇『必殺仕事人』	10/8 10/9	15:00~16:00 10:00~11:00 14:00~15:00	1B202 1B202
もちつき	10/9	午前・午後	松美池前
映画『チャップリンの独裁者』	10/10	12:30~	1D204

・宣伝は、3日間 所がまくす出現します。お楽しみに!

・各種パンフは、1B201においてあります。



- さ (助) ピコニニムム「今朝4時頃帰ってきおつ? どこまで行つてた?」
- さあつた (動) ふれた「きやつゝいやらしい! 何であたしの足立あつたのよ」「う、ウルしかと思って」
- さいな (副) それならの意。「立いな きうな立いな」「は…?」

- しがをこす (動) やけになる「Dの1つや2つでしがをこすでねえ!」
- したい (名) 額のこと 大粒の汗をしたいにびっしりとぬいて。
その男はある日の午後チャーメンライスを
食っていた。—貧しき学生像 in 筑波
協力ランラン —
- しっかり (副) たくさんの意。「さ行の例文どのくらいできまし
たか?」「し、しっかり…」
- しゃらめる (動) しめること “寝る前に必ずしゃらめれ親の首”
「不謹慎は! 冗談でも許せん責任者出て来山
とおっしゃる方、ゴメンなさい。」
- しゃらやれ (成) 行ってしまえの意。「ダーリンなんか… あんたダーリン
なんか どこへでもしゃらやれ!」
- しゃらろひ (成) 知つていろだろうの意。「おめ、こん授業の先生を
知つてろひー?」「知んぬ」
- しゃひ (副) へしようの意。「テニスしゃひー」「畠荒すでねー!」
- じなる (動) 大声を出すこと「じぶんでねえ! ろえみか
歌つてんのに聞こえねーよ」
(だ、誰のセリフかわからぬ)

- しゃっこい (形) つめたい 「あー、しゃっこい しゃっこい うめえだあ
このかき氷!」「委員長~~~、月夜の晩げかい
とは思うなよ~~!」
- じょうり (名) どうりのこと 「ドイツ語 Cじゃあっ!」「C、Cを
また Dがあああ……」 —— じょうり虫の背くらべ
- しょびく (動) ひっける 「早くう」「パンツ しょびく なよ」

す

- すっかい (形) すっかい 「すっかい経験……したいナ」
- ずのばる (動) うねばれる 「俺がいなけりや 茨和辞典は
できねーんだ」「ずのばんな! ニクレでできてる
じゃゆえな!!」
- すまっこ (名) 隅のこと 「おめ何いじけてんだ。すまっこ 寄って
ねえで、こっちさ乗、来」「じゃねましやい。
すまっこ好きなんでー。」

せ

- せえる (動) しまうこと 「これ せえぬ やる」「やめとけよ。
Bぐらいで…… 大事にすることねえのにな」「
「Bのついた 答案ぶんてめったにお目にかかる
もんじゃねんだ! 文句 言うでねえ」
- せっニセッニ (動) 急ぐこと 「瀧古ふ そんに せっニセッニ せんで
一緒に行くべ」「そ~お?」
- せつない (形) 貧窮すること 「せつねえ だった。来月まであと4円
しかねえ……」
- せんべん (名) せんべい 「草加 せんべん は 千通(食べても
あきねえべ)

そ

そうだっかけ (成) そうなのである 「ええ、大洋負けちゃったの?」
 「そうだっかけ、でもまあ次は巨人戦だから
 安心だあ」

そーけー (成) そうですかの意 「今年の大大学戦は早慶で
 オーバンだ」 「そーけー」
 「次は法慶だな」 「ほーけー」

そべる (動) 甘えてすぬること 「もっとそべっていいんだよ聖子」
 「言論の自由たれ 恐ろしいこった」

ぞんざい (名) 粗相 「先の副将軍水戸光圀公のそくいさんの
 友だちにひんでぞんざいひでときくんだ」
 「それが何の自慢になるんだ」

そんてに (副) そんなどに 「今年の優勝はヤクルトだわ」
 「そんてにばかな話誰が聞くか、大洋にきまとる」

ナニ

たーこと (名) ムダごとの意 「おれ明日こそ授業5時間全出席
 するべ」 「そんなたーことだ~れや聞くべ」

たまけがらった (成) ひどく驚いたの意 「たまけがらった、あめえそんなど
 に太ったの!」「うう、今度減食するべ」

たやっけねー (成) 空腹なこと 「栄養定食と豚汁だけじゃ、たやっけ
 んよー」「しんとうくん、それを減食っていつの?」

たゆえぬやー (成) 容易なこと 「おう、おらドイツ語Aもら、らま、た。
 いや、ドイツ語なんて【たゆえぬやー】
 「2年やってけれだな…」

だんらー (名) 誰か 「尊類室にだんらーいっけー?」「おうザラ紙の
 小のねぎに人がいるぞ」「ふーい、戦争は終った
 んだぞー!!」「う、うめ。」

ち

ちくーぬく (成) うそをつくこと 「学類企画入らぬえか? 楽しいぞ~~
委員長は真面目だし、去年単位落としたもん
「なんか誰もいぬえぞ」 「ちくーぬくでぬ。おら
去年……去年入ってたんだ! ウ~……」

ちみたい (形) 冷たい 「風からみたいからこれ着てげや~~」
「んでもー、筑波ジャージ着るのには、おらの美意識
が許さぬえ」

ちやかれ (動) 退けということ 「えーい、ちやかれ! ちやかれ!!」
「この杖どころが目にへーらぬえのけ! 頭か
たけえぞ~!」

ちやーちゃー (名) 平気のこと 「今はちやーちゃーだけんど、いやあんときは
こわかったな~ペー」「ああ、ほして学類室にパン
1個たりなくふいといだんだだ~ペ。悪い出しても
おつかねよ~~」

ちんと (副) 少しの:と 「ちんと行ってくっから」「犬と行くのけ?」

フ

フコちゃん (動) 落ちる 「もっと安くなんぬえの?」「えーい! 松見
タワーからフコちゃんつもりで! ……あれ、どうしたんす
せんぬきタワーじゃあぬめけるべ」

つまる (動) 死ぬ 「じつあまもとうとうつまつたやー」
「なんでも のどさ、ちらかつまつたんだと~~」

つらまへる (動) つかまえる “陸稻ばたけでつらまえて……”

つんぬげる (動) 逃げる 「つんぬげたらいいけぬえ、現実を直視するだ
んだ、今年かだめでも、来年かあるだ」
「ドイツ語三年やってる人もいるだ」

て

てけえやー (成) 大きい口の意 「いやあー 海っしゃ、てけえやあー」
 「そりや松見池だべ、おめんとこの県、海
 めったにけ?」

でんでんつぶろ (名) かたつむり 「おーい、えすねるごつくってぞ~~~」
 「それ何だべ」「でんでんつぶろ」
 「うぐ~~~~ほほほ、悪いよ、用があ、て~~~~」

てんねい (形) 仕方がない A 「情報処理落としまったー」
 B 「試験何問とけた?」
 A 「——自紙」
 B 「そりやあ てんねーや」

と

ビさいく (成) ビニへ行くこと 「ふじさま、ビさいぐんだあ?」
 「泥棒さんて、悪い魔法使いそやつに
 いくんだべ」

ビッペもねー (成) とうもないこと 「た行これだけ?
ビッペもねえ手抜きじゃあ!!
 「それけあまりにストレートな言い方だわ。
 こう言えないから、た行の分は余力を残してよ、こ~」

な

なきぶら (名) 泣きやすい人のこと 「泣くのは人かどうしようも
 ない時にするもんだ」「じゃあ 泣きぶらの
 立場かねえじやねえか」

なじゅ (副) なぜの意 「本員長、なじゅ泣いてんの?」
 「だって仕事かねいんだよ~!」

よじょーにもし(成) 何としても「ドイツ語の単位は~~よじょー~~にももらひにや
なんゆき」「心配するに来年は朝鮮語かあ、から」

よったけ (副) なるだけ「レポート10枚!? おれの資料じゃ5枚も
書けぬえよ!」「よったけ ひきのげせ。書きは
教授のよさけありだ」

よめこい (形) 滑らかといふ意。「おめえの肌よめこいが、触り心地
いいやあ」「ポスターにほめたって 矢野さんは笑ひ
ぬえぞ」

よらんにえ (成) なることができないといふ意。「世の中思うようには
よらんにえもんだ」「巨人が負けたからって…
大洋が強いたげでしてから」

よんだいべえ (成) 何であるかの意。「おい、こりゃよんだいべえ」「…本」
「んじこたあわか」とる。おらの聞いてんのは、
「よんでおらの本かここにあるな!!」

よんぼにも (副) 何分にも「よんぼにも よだ幼ねえもん…」
「だめだっ! 原稿できねえたらこの娘はもらってく」

し

こあつとり (名) 鶴 「ときかくよく こあつとりますよ」

こ一されつい (成) 思いきりの悪いといふ意。「おめえ ねんじんな時にこ一され
ねーすお」「いいんだ あんば 女」

こ一ゆ (名) 沸湯のこと 「全くこ一ゆを飲まされる思いた」
「たかがコーヒーで、こ一く」

こゆー(けりごみ) (名) 新治郎 「目が覚めると 老生の上で寝ていた。二日酔
の頭に朝の風は爽やかだった。ああ…
こゆー(けりごみ)の朝は早い。」

こんどと (副) 二度と、決して「俺、こんどと 酒飲まねぞ」
「此れ 何度めのらかい?」

にんやか (名) にぎやかのこと 「いやあ、若いもんたらけにんやか【にべ】」「うるさいっていへんですよこれけ。」

ね

ぬかす (動) 言うの意 「おめえ、廊にそんなステッカーは、て恥ずかしくないのか」「なんだぞ、もういいへんぬかしてみろ! ミンキーモモのビニが恥ずかしいんだ!」

ぬけすけ (名) 愚かなこと 「試験の時間まちがいやがって、このぬけすけ」

ぬげる (動) 逃げるの意 「ほさだ、お巡りさんが来るよ」「ぬげろ、隠れろ、今すぐぬげろ!」

ぬすった (成) 盜んだの意 「おめーあれの技(テクニック)ぬすた?」「自転車くらいガキでも乗れるか!」

ぬすとー (名) 盗人 「おめー俺をぬすとー呼びかわすんだけ」「無理もぬ、あんな出席で単位とらまいやがって」

ぬく(り) (副) 悠々と 「そーだにぬくくりしていいの?」「ふん、莫様なんかいつでも通るわ!」

ぬっつける (動) 塗りつける 「おめえ、パンに何ぬっつけてろた!」「水戸納豆」

ぬるっこい (形) 微湯のこと 「あの一、原稿明日でいいですか」「いいよ」「ぬるっこい」

ね

ねこめ (名) ネコのこと 「ねこめ小僧」

ねじくる (動) 負かすの意 「巨人なんか軽くねじくってやったぜ、ヤクルトは強えだあ」「おめえ恥ずかしくねえのか」

(2) 曲げるの意 「ねじくったら折れちゃう。」
「ひざは普通 前にねじくればねえもんだ」

ねたぐる (動) 錯う 「委員長 9時だべ 本当に電話しねえわけ」
「おめえも ねたぐり 深えぞ」

ねつこい (形) 淡白でないこと 「納豆ってどうして ねつこい の」
「それには、まあましく結びついてるからだよ」

ねっと (名) 粘土 「ねっとこねて土器つくべ」「どきどきすんばあ」

ねつねつする (成) 淡白でないこと 「あの二人いつも ねつねつしてて 気持悪いわ」 「一、矢の二人部屋にいるとあーな、ちゅうのよ、きっと。やーねえ」

ねやかに (副) にわかに 「それでね、チャクリ丸ごとかじるヒヌ……あれ、どうしたの?」 「ねやかに 頭痛が…」

ねらべる (動) にらむ 「さう ねらべん よ。明日絶対に返すからよ」「督促で名前つけられたんのはオレだっ」

ねんばり (名) 淡白でないこと 「まだドイツ語と、こんの」「おら、人の四、五倍は ねんばり 強いんだ」

の

のぐ (動) 脱ぐ 「角川はつまらんはあ」「ぬかしたなよ! よし 知世は絶対のがさんぞ、覚えてろよ!!」

のし (名) 主のこと 「人文学類ののしは誰だ」「のしだ」

のこす (動) 人に先んずる 「修復終わったぞー」「のこされた」

のま (名) 沼 サキ「なぜ鍵を!? こんな部屋さつれてきて何する気なの」
「…迫る寒…穢めるネクタイ…」
サキ「のま…さん」 バシ! (たたく音)…
沼「教師と学生かい山はねるにひとつ!」
サキ「けい…勉強ね」

- のめす (動) 打倒する 「かっせ、かっせ田代 巨人のめせーオ！」
カキーン「打ったー サヨナラだあ！ 大洋の
サヨナラ勝ちでーす」 なんちやって。
- のめる (動) 埋めるの意 「おめーの去年の成績表だあ」「のめ、ちめー、今のめ、ちめー、すぐのめ、ちめー」
- のやのやする (成) むし暑いといふこと 「今日はのやのやするなあ、
このまま午後まで寝てよ、ヒ」

卷中特別講座 その2 實踐、英語会話

せお、編者に創作筋動か無いので、ここの会話はすべて引用です。イメージをこわしたくない人は とばしてください。

① 親子関係編

家庭内暴力もあるこの娘、親の本音と下書きえを引いてきました。

・下書きえ

出会いの日

「とにかく… 一隻に何もかにもうまくやろう、ちゃーのは、無理な相談だし、ゆっくり時間までけてお互いにないんかいけどいいと思うんだかは」と義理さんへ言つたべ。

「何があたら、遠慮なく言ってくれよ」と義理さんが言ったべ。
ほむ

とんでよい子のアシジーチャン
すぐさま元気にお返事「はい」

・本音

別日の日

母「おみえ、ほんとうに とのエレーナー娘の星を行、ちまーのかい」
息子「ああし」

母「ほんとうに とのエレーナー娘を行、ちまーのかい。おみえ それは平気なの？」

「とにかく… 一気に何をかもうきくやろうというのは 無理な相談だと思ふし、ゆっくり時間までけてお互いにないんかいと いいと感じたから」と義理さんへ言つた。

「何があたら、遠慮なく言ってくださいね」と義理さんが書いました。
ほむ

とこどりよい子のアシジーチャン すぐさま元気にお返事「はい」

母「おみえ、ほんとうに、とのエレーナー娘の星へ行、ちまーのかい」
息子「ああ」

母「ほんとうに とのエレーナー娘を行、ちまーのかい。おみえは それ平気なの？」

息子「男の子は いつか母親と誤解するもんだ『さが』」。

息子「男の子は、いつか母親と誤解するものがだる『さが』」。

T 「そんた…… そんた … おまえは
一人っ子なんだよ~~~~~
一人ぼっちになつた母ちゃんの…
母ちゃんの老後はどうなるつちやん
んだよ~~~~!!」

T 「そんた…… そんた … おまえは
一人っ子なんだよ~~~~~
一人ぼっちになつた母ちゃんの…
母ちゃんの老後はどうなるのよ~~~~!!」

② 告白編

..... 脈絡のつけようがつかないにて、

M 「杏林さん、おらが飼う犬は、
轟一郎さんだけだべ。」

K 「あめ……」

M 「おらの言ふ意味、わかるか?」

K 「おぼ3代に……」

M 「大それだ、2代目、2、3人じゃねえ
よ、他のため。遠まわしいアロハーブ
レズだ、おらは」

K 「…… やはり……」

M 「杏林さん、ぼくが飼う犬は、轟一郎公
爵一郎です。」

K 「あの……」

M 「ほくの言ふ意味、わかるか?」

K 「おぼ3代に……」

M 「犬を轟一郎山と言ふらしいあり
ませぬ。他のため。遠まわしいアロハーブ
レズだ。ぼくは」

K 「…… やはり……」

○ このような造り音もあるのを。

J 「取り引きしよう(ふねしき)」

T 「取り引き!!」

U 「おらは轟我の後橋がほしい。それで
おまえは腹人中君子の父がほしい」

T 「…… ああ! もうだめ……」

U 「だから、取り引きするべつ、21(ヤハタヒ)」

J 「取り引きしよう(ふねしき)」

T 「取り引き!!」

U 「おれには轟我の後橋がほしい。で
しておなたは腹人の中の子の父がほしい」

T 「ああ! もうだめ……」

U 「だから取り引きしようといつもおどす

(は)

ばかいも (名) 馬鈴シヨのこと。

「今年のばかいもので手はどうだ？」

「父に手いてみなければかいもくわからねえ」

はげっちょ (名) ハゲの部分、人のこと。

「このはげっちょ目立つなあ」「おめえこそ」

「はげっちょ同志でけなしやっとる」

はだけ (名) 火田のこと。

「はだけを行ってなすと、くへ。」

「そうだなす。」

ばっけ (名) 化物のこと。

A 「レポート何枚書いた？」 B 「15枚」

A 「ばっばっけ」

ばっち (名) 末子のこと

「うちのばっちがねえ。小汚ねえばっち集めてよお。部屋中ばっちだらけで。ばっちいのなんの、て……」

ばっば (名) 老婆のこと。

「あのばっばうせえは、いらっしゃ感じしゃがんで」

「ベストテンの脚部だな。ありや」

ばなくち (名) いびきのこと

「おめえのばなくちうっさくて眼れなかつたぞ」

「次の授業は、オレが起きつから」

はら、ひり (名) 下痢のこと

「先生……何を言われても驚きません。本当のことと言つて下さい。ぼっほぐの病気は……」

「はら、ひりです。アカディズモのんでなさい」

ひ

ひっさしつける (動) 貢めつけるの意
 「おらおら仕事仕事」 「ひっさしつ虫」

ひっくる (動) たましとるの意
 「あれ? よく単位もらえたなあ」
ひっくった

ひいたす (動) 引出すの意
 「授業料まで ひいたして 使っちゃった」
 「……貸さんぞ」

ひちゅけろ (動) 裂くの意
 「ああズボンの後ろ、ひちゅけらまつた」
 「ルンルン♪」

ひとごろ (名) 懐のこと
 「人のひとごろはかりねらいやがって、鬼！」
 「ね、ハンスパ? いいからさ、ね」

ひーほんぐ (名) 低い鼻のこと
 「あたって ひーほんぐ 分の！」
 「伸ばしてみたら」

ひび (名) 蛇のこと
 「ああ、このかくわしきがあり、酒ヒバウのみび、我にあり」
 「くほ? や? とく? まいて 何高とる」

ひやいく (副) ひきいくということ
 「ひやいく会わねえなあ、元気がある」
 「たまには授業出んと忘れられると」

ひんぢょ (名) 片眼のこと 「……タモリ…」

ひんのまい (名) 午前のこと。
 「ひんのまいのうちに終りにす、ペえ」
 「よ、よし その言葉忘れんな。絶対西入はせんぞ」

ひんむくる (動) ほぐる意
 「蒲団 ひんむくらまうせ」 「ホッ」

13.

ぶっくりかえる (動) 転倒するの意
 「本につきついで、ぶっくりかえ」
 「なかなか 言えねえよ」

ぶっちやす (動) 打ち破る
 「こういう不まじめな企画は、ぶっちやすに限る」

ぶってえ (名) ひたいのこと。
 「ぶってえの 広いネコだな。 ことわざが通用
しええな、これじゃ」

ふるしき (名) ふるしきのひと。
 「ふるしき包みをかかえて彼な複数編集まで
通った。苦戦いたった」 苦しい……

ぶんと (名) 本当の意
 「いやあ、映画って ぶんとにいいもんですね」
 「どうです、ところど今年は「独裁者」だ→」
 「10日の昼すぎから 1D 204だということだべ」

ぶんのぼる (動) 踏みつけるの意
 A 「さあ、ぶんのぼれ」
 B 「だ、だあた、おら とても委員長の写真 ぶんの
ぼれねえ」
 A 「さ、さま、かくれ人文か」

ぶんまける (動) 物を空ける
 「一人娘 3人で ぶんまけへ。」
 「えへへえ。し、しきいわにかどいるどお」
 「びけえこというのに、なんで一杯でこうなるだ。」

へ

へえ (名) 灰のこと。 「へえかぶり姫。」

へえつくばる (動) 平伏するの意
 「学生がいつも へえつくばてんのはどこの大学だ?」
 「さあ? でも へえつくばる、つくらいたから」

へえめ (名) ハエのこと。
 「へえめ、へえめ、かんめ かんめ キンチョール。」
 「聞いてんだけでかゆくなる。やめれ。」

へがし (名) 東のこと
 「へがし大通りは 高速道路じゃねえぞ」
 「みんなで守ろう。soft and safe ——。」

へがす (動) はがすの意
 「許可のねえビラは 片端から へがしちまえ」

へじこむ (動) 押しこめるの意
 「へじこえ、採決までは 定足数死守やあ」

へともない (成) 何でもないの意
 「おめえ そんげに 単位落として どうすんだ?」
 「へつともねえ。うそ、へつともねえ。へつともねえんだよ。」

へんてこさいづち (名) 奇異なこと 「何、おのへんてこさいづち」
 「奇異長ですよ」

(は

(ほさり) (副) 気がつかないこと。
 「そんなところで『ほさり』してえ、また二日酔だべ?」
 「二日酔には『ほさりスエット』」

(ほーだ) (成) どうだ"という返答
 "あれが"筑波山か?」「ほーだ」

(ほーたろ) (名) ホタルのこと
 「… ほーたろもとでもよろこんだわけで 結局
 ボクも父さんがきらいなわけではなく…」

(ほーにんぼ) (名) 頬のこと
 「うめえ、ほーにんぼが落ちそうだ」
 「… まだん・パンの耳しか食わねえとあんばんが
 こーなるのか」

(ぼっきれ) (名) 棒のこと
 「人は2つの違う道を通って獸性を発揮する。
 理性をかばぐりすつて ゲバぼっきれ持つて
 そして理性によって 裁判所のように」

(ほっこり) (動) 握るの意
 「とまどいの週末」ほっこりらえみ

(ほなる) (動) と"なるの意
 G 「ほなるな! 声の一一番大きい者が一番正しいわけだ」
 A 「といいつつ、今のはやはり声のでかさで
 勝つてたりしてな」

- ほらった (成) 物をなくしたの意
 「さいふ ほらった」
 「人のカバンの中 探すな」
- ほんくら (名) 気の利かない者のこと。
 「おどきま ほんくら ほんくら ほんからさーきせ
 おらんど」(こんなのがいいのか)
- ほんじや (成) それでは の意
 「おうは 公明正大な 例文を ルがけて…」
 「ほんじや。なんでいつも大洋が勝って巨人が負けんだ!」
- ほんぼ (名) 木の実のこと。
 「焼バラ定食、食いつなは」「ほんぼ 行んべ」
- ほんだける (動) 投げ出すの意。
 「委員長の写真だ」「そんなもん、さっさとほんだける!」
- ま
まいす (動) しらばぐれること
 — A、残高の貯金通帳と人形を見せながら、
 A 「おめえ、この人形 なんだ?」
 B 「… クラリス人形」
 A 「まーすんじやねえ こら」
- まいっばー (副) たびたびのこと
 A 「おめーが こんな ちゃらくたあ商品ばっかり
 買ってくっから 貯金がもうねえんだぞ」
- まきだっぽー (名) 植のこ。
 A 「こんなもん、まきだっぽーにも ならねえ」

- まぎみ** (名) 眉毛のこと
 A 「たいたい、なんだ」このポスターは！こんなへんなまぎみもった顔のどいかええんだ」
- まくつりかける** (動) けんかをしかけること
 B 「おめえ、おらにまくつりかけんのかあ！」花中のランプトン由をばかにすんでねえ」
- まげる** (動) 質にいれること
 A 「ほん、どんなもんさっさとまげて金もってこい！もとも、どんな絵いくらにもならんだろうがな。」
- まじく** (動) 悪口を言うこと
 B 「お、おらをまじくんならともかくモ一様をまじくんでねえ。見ろ！このレッド星を、きらきら光ってるでねえか」
- まじっぽい** (形) まぶしいの意
 A 「あー まじっぽい、まじっぽい、まじっぽくて涙がでらあ。さっさと金にかえてこい！」
- またいる** (動) 来ねるの意
 B 「うう……ぐすっ。おらの天使たちまたいる、おらを許してくれろ」
- まだるつける** (動) 待ち遠しいの意
 A 「ほん、はやく金にかえろ！おれは、うまやとさんを見るのがまだるつけるんだ」
- まっくらさんぼー** (副) 後先見すに言うこと
 B 「そ、どんな まっくらさんぼー な。たとえば、これなんか金じゃかえない貴重品なんだぞ」
- まっくろへんぱ** (名) 大変黒いものこと
 A 「なんだ、まっくろへんぱ（じゃないか）印刷ミスだろ？」

- まっほが悪い (成) 不運のこと。
 A 「おめえも まっほがい いなあ。ほほほ。
 は、ひふ、へ？」
- までー (名) 下算のこと
 A 「おめー もんねに までー は扱うなん?
 どうしにん?」
- までる (動) たまるの意。
 B. 「亂下本は珍しいんだ。へへへ。
 こんなに までったぞ。」
- まびらかす (動) 見せびらかすの意。
 A 「もんねもん まびらかして ビーすんだ。
 病気だね。ニリヤ。」
- まーめ (名) 馬のこと
 B 「もんねこと いつても まーめ の耳に念仏だ。」
- まめする (動) 憶面するの意。
 A 「おめえ、少いは まめするつーことを知んねえ
 んか。」
- まよう (動) 償うの意
 B 「わあった、わあった 晩めいで まよって やつから。」
- まーるく (動) 束ねること
 B 「たゞども、たたてはねえ。まずポスター まーるく
 の手伝えや。」
- まれる (動) 生まれるの意。
 「ポスターを まーるく 男と男。見つめあうふたり。
 そして、どこに 夢が まだる。」
- まんばち (名) うそのこと。
 A. B. 「まんばち こくにも ほびがある。
 えー、おうんに(3)。」

24

みいい (名) 溝のこと。

「みいいこのおかげで Aさんと Bさんとの間に みいいこができちまつたじゃねえか」

みくさい (形容) みにくいこと 「みくさいあひるの子」

→



みしゃく (動) 押しつぶすの意。

「いら：みゆくが食べてしまへ—— いら：みしゃくよ」
「……態度がでけえんだよな…」

みをあける (動) 自慢すること

「水戸には納豆くらいしか みをあけてねえだ」

みをかけ (名) 顔を洗わない人のこと

「お、おら、みをかけには なりたくないねえ」
「たったなら あと2、3分早く起きたらいいだ」

みたわし (名) 見たの意。

S 「おめえ、昨日のうる星やつら

みたわし」

K 「んなもん だれが見るか」

S 「みたわし みうちよ、時代におくれるぞ」

K 「なにをいうか、あんなもん、ペッペッ」

S 「おめえ みうちよ みときに、ラムちゃんの魅力がわかってきたぞ、かよお」

K 「あーいやだ、それで“大学生！
たまらんね、みぼーろきがするぜ”。

おめえ、んなことしててええんか?
英検が迫っとるぞ」

S 「(ぐさ!)……お、おらのみんこは
貝のから、人の親切うとんす“みんこ”」

みーしら (副) しきりの意。

S 「みーしら みーしら」

K 「んなもん だれが見るか」

みーちよ (名) 見なさい

S 「みーしら みーちよ、時代におくれるぞ」

K 「なにをいうか、あんなもん、ペッペッ」

S 「おめえ みーちよ みときに、ラムちゃんの魅力がわかってきたぞ、かよお」

K 「あーいやだ、それで“大学生！
たまらんね、みぼーろきがするぜ”。

おめえ、んなことしててええんか?

英検が迫っとるぞ」

S 「(ぐさ!)……お、おらのみんこは
貝のから、人の親切うとんす“みんこ”」

みーちよー (助) ～のようにの意。

S 「みーしら みーちよー」

K 「なにをいうか、あんなもん、ペッペッ」

みとさま (名) がんこなこと

S 「おめえ みーちよー みときに、ラムちゃんの魅力がわかってきたぞ、かよお」

K 「あーいやだ、それで“大学生！
たまらんね、みぼーろきがするぜ”。

おめえ、んなことしててええんか?

英検が迫っとるぞ」

S 「(ぐさ!)……お、おらのみんこは
貝のから、人の親切うとんす“みんこ”」

みほーろき (名) 身みどりいすること

S 「みーしら みーちよー」

K 「なにをいうか、あんなもん、ペッペッ」

おめえ、んなことしててええんか?

英検が迫っとるぞ」

S 「(ぐさ!)……お、おらのみんこは
貝のから、人の親切うとんす“みんこ”」

みやみ (副) むやみの意。

S 「みーしら みーちよー」

K 「なにをいうか、あんなもん、ペッペッ」

おめえ、んなことしててええんか?

英検が迫っとるぞ」

S 「(ぐさ!)……お、おらのみんこは
貝のから、人の親切うとんす“みんこ”」

みんこ (名) 耳のこと

S 「みーしら みーちよー」

K 「なにをいうか、あんなもん、ペッペッ」

おめえ、んなことしててええんか?

英検が迫っとるぞ」

S 「(ぐさ!)……お、おらのみんこは
貝のから、人の親切うとんす“みんこ”」

む

- むがー** (名) 向いのこと。
 「むがーの お婆さん、ソフトがうまかったんだべ」
 「とうとううらけえ。まあ 30年も昔のことだぞもん」
- むかれつき** (名) 生まれた月のこと。
 「むかれつきが遅いのは いいなあ。おれなんか
 もうすぐ2/に「な、ちまうよ。」
- むくらもち** (名) もぐらのこと。
 「地面が動いてねえか」 「むくらもちでも いんだべ」
- むさい** (形容) 不潔なこと
 「今月はじめて 風呂へ行つたよ」
 「おめえも むさいやつだな。どうしようもねえ」
- むさっぱー** (名) がんこ者。
 「あいつも むさっぱーだなあ」
 「まーに 4年で卒業できると思つてやがんだ」
- むすい** (形容) 尽きないの意
 「ああ、もういやだ。いくらやつても むせえんだ。」
 「試験の前、一晩しかやんねえからだ。」
- むちゅぼえなし** (名) むだにすること。
 「きゅうりはんて いんねえ」
 「食べ物を むちゅぼえなしにすると、もったいねえおばけが
 出てくるぞー」

31

むっかり (副) きせんとしていること。O. 「明日の代返しひけよ。」

むっくりかえす (動) くり返すこと。 M 「んてことで むっかりして どうすんじゃあ。」

むづする (動) あざむくの意 O 「おねがい、かいといって」

M 「そーたに むっくりかえす よ。まかしひけって。」

… そして次の日…

O 「よくも むづ すたばな。今日テストだつたらじやないか！」

M 「だから書いたよ……名前だけ。」

むなくさわるい (成) 胸が苦しいの意

「初めて会った後からあんたんこと考えると むなくさわる くて……この気持ちわかってくれんろ。」

「あの……言葉の使い方が… おかしいんじゃ…」

むるせえ (形) うるさいの意

「またさほったばな。少いは考えろよ。」

「つたく むるせえ な。ほっヒケよ。」

め

めえ (名) 前のこと

「この めえ 貸した本返してくれや。」「売った。」

めじらっぽー (形) まじめらしいの意

「あー！ ミラーマンだ。」「めじらっぽー て見えねえ。」

めだるい (形) 他人の仕事を見かねること。

A. 「このとけち虫を放り出せ。」 A. 「え、？ でも…」

B. 「やれ！」 B. 「そっそんば、少佐あ…」

「めだるい。俺がやる」

J 「ひええ… ほ、ほくしゃく～ たすけてくださいよう～」

- めっかさる (動) 見つけられるの意
 「おめえ、かくれコバルトだつたのか！」
 「ひえ、めっかさったか！ こう素子ちゃんにさーるだよ」
- めったっぽう (名) 目的のないこと
 「めったっぽうが旅に出てくるぜ！」
 「ミニサイクルって説得力ないのね」
- めっぱりこ (名) 面前のこと
 「おれは、人の陰口は言わねえぞ！」
 「で、おれのめっぱりこで“言ったんか、ほーカ、ほーカ”
- めどっこ (名) 穴のこと
 「このめどこは… 以前比留子古墳で見ためどこと同じだ。」 … わからたら病氣でねえか…
- めまぐらし (形) うるさいこと
 「こんなめまぐらしいとして“勉強できゅか！”
 「モーナーバ」と言って自分も麻雀したいんだろ」
- めめず (名) めめずのこと。 「めめず 1000匹」(ふら知んね)
- めやき (名) 目やニのこと
 「今月に入って2つも授業に落ちたぞ。たゞ！」
 「おれなんか すつた“とみ”
 … めやき、鼻くそを笑う…」
- めーよ (副) たびたびのこと
 「午後の出席たのも」
 「そうめーよじゃあ、たぶん“やあできねえなあ」
- めをちやふる (成) 目を開じること
 「めをちやふつ、よく見つめて：“らん」

めんざか (名) 目がが高いこと
 「このまんが、すきだね」
 「おめえ、めんざかだな。こりゃうりたみがい
 つう まんが家の書いたものじゃあ」

めんたい (形容) めでたいこと
 「おーい、福岡からお工廠が届いたよ」
 「へえ——…（発想の貧困さに自己嫌悪に陥ったため中断）」

めんたもー (成) めでたく祝うの意
 「今日あいつ誕生日だも
 「そりやあ めんたもーしなくっちゃ、ロビンフッドだな」

も

もこ (名) 構のこと
 「もこのの、中村家の当主としてはずかしくないんで

「須川君、もっと恥知らずにはなければだめよ」
 「とういう須藤だつて、もっとほけた顔しなくちゃ」
 ということは、須藤=主水と須川=せ人の
 かけ合ひをあたえたみたいに。 ……つかれてるなあ

茨城語劇『必殺仕事人』

10.8 15:00 ~ 16:00

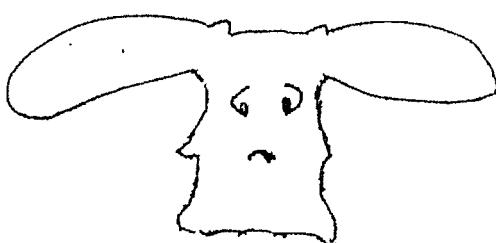
10.9 10:00 ~ 11:00
 14:00 ~ 15:00

IB 202

もこー (名) 向うのこと
 紅のもこーは、晴れなのから、あなたのお前のあ
 たり。金城ともんぺが羽根にならなら…

も("くる) (動) もむこと
 「ねえ ちょっとここも("くる)
 いいんですか」

- もじこい (形) かわいいの意
 「この場を借りて告白します。あんなてあなたは
もじこいんだ。」(失礼しました)
- もたら (名) ワラ東のこと
 「もたらの上で昼寝したらつい寝すぎちまた」
 「3日もいきくなつたからル配したんだよ」
- もっきり (名) 茶わん酒のこと
 「おめえ もっきりとは おじんくせえなあ」
 「何言ってんじ。なかなかしふいべ」
- もってべーー (成) 持っていないこと
 「おめえ 教科書 持てべーーな」
 「決まってへ。自慢(やねえが)1冊もねえよ」
- もてる (動) 植物の繁ること
 「XXの部屋 すいいんだ?」
 「ああ、草がもてるばかりだ…宵待草か…」
- もどもど (副) 待ち遠しいの意
 「秋休みがもどもどだなあ」
 「また2学期になつたばかりだへ」
- ももんじ (名) イノシシのこと
 「おらきた、ももしかちょうヒ！」
- もんべー (名) まりのこと
 「こんな てんもんべー てんもんべー」
 「0点、かだなんだよ、3点！」



や

- やくぬけ** (名) 用に立たない人のこと。
 「このやくぬけ、代遣もできねえのか」
 「たうてあの先生、人數かどえるんだもん。」
- やけつけた** (名) やけどのこと
 「レイディ、あれに近づくとやけつけた」と
 「言葉のはじめの違和感がステキよ」
- やっこい** (形) やわらかいの意
 「現代はやっこい考え方を要求する…そして」
 「親が社としても…」
 「豆腐屋さんも厳選の大変だ。」
- やだんば** (感) いやだ、反対だの意
 「上司は反対した。妻は(に)きついていた。父は、
 やだんば」といった。でも今日ばかりは済たぐる。
 — 遷刊 済たく情報 —
- やつらもねえ** (感) 總務なこと。
 「今週は無欠席でやんばるをあ」
 「アホ! 週間だけ出てもやつらもねえ!」
- やませる** (動) 打つの意
 「珍ちゃん、君のボールは必ずやます。」
 「珍ちゃん、これゴルフなんだよ…」
- やつぱり** (名) 夜業のこと。
 「母さん、今ぱりはやつぱりをして食事を稼いでいます。」
 「珍ちゃん、ねこうに向、いい度胸だ。」

よ

よいあわえ (8) 日和のこと。 「よいあわえ見主義者」。

よいじせねえ (成) 容易なことではないの意。

「例文を趣味に走らねえようにするのは よいじせねえ」

「おめえ、これ以上走つたら病氣つーんだぞ」

よがる (動) 遠くの意。

「こゝは よがれん、この一步のよがりがやがて
ほれしなく…」

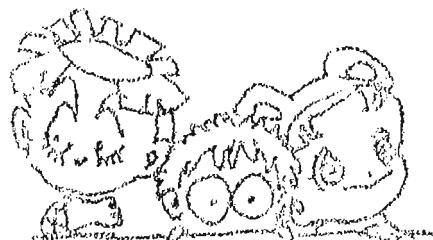
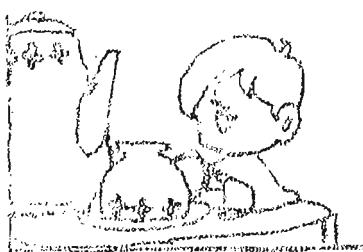
「用客はシリアルなどのにねえ」 「そうだねえ」

よごく (動) 動くの意。

「ふ、ふ、少しても よごけば一巻の終わりだぞ。
さあ、うす、ラオ博士を説得せんた」

「ひょよう者、おじいさまはどんな人に力は貸さないわ!」

よせー (8) 算計のこと。 「よせーなる事ぬも知ぬぬけし」 みこの出で遊ば
ないでくれ！」



読和辞典 第二版

1982.10.9 初版発行

1983.10.8 二版発行

82.0~83 人文学類企画委員会



読和辞典 読書会班 発行

茨和辞典 特別付録

茨城語 10 日間

—これまであなたもばいりんかる—

洒落と冗談でござかしこきた茨和辞典が、遂に決死の覚悟ぞ
穴を轟る「茨城語10日間」(なまえからじてきあいた) さあ始めるよ。

1日 あなたが、気浪に乗せ、おもろく始めた「これが茨城語か」と
思ついたところです。ううです、語尾に「べ」(または「へ」)
をつけるのです。恐れではいけません。まあ、はい、そ
ぞらんなさい、めくるめく「べ」の世界へ。……はじめは、
何でもかんでも、ともかく「べ」をつけることです。
そして、心の壁が破れ、無意識に「べ」をつけちまふよう
にな。たら、あなたは、記化すべき、茨城語圏への第一歩を、
歩みだしたことになるのです。

2日 つぎにやるべきことは、アクセント感覚を捨てることです。
せなりの人たちの生地のアクセントと、ここでのアクセントは
基本的にちがいます。茨城のことばは、「崩壊型」といふも
の、まあつまり、みんなせいいかげんに語していいのです。
アクセントがくずれてしまつたことばなめです。(これは、角川
辞典のことばと、くだり下ものどう。) さて、具体的にどうする
かというと、字面だけを追ってみて、めちゃくちゃなアkses
トで話すといふと困ります。ここで、衝撃的な

ことあります。どうぞ、茨城では、「雨」と「音」の区別がないのです。換算すれば、茨城では、「空から音が降った」といっても、たれもおどろかないのです。これが納得されたなら、2歩目を3.3.4.こんだことになります。

第3日

いま、ことばの世界へ、入りましょう。まずは、「い」と「え」を混合させることから始めます。まあ、区別をあいまいにすればいいのです、英語の「ee」の発音のようだ、とりあえずいい。これはいかがでしょうか。

これで、どういう事がおこるかといういう事を考えてみます。たとえば、「奉賀会王した」か「宴会王した」にはまた、「インカの意味を考えた」か「内歎の笑みを考えた」に、ついつい、「腹の中を映画を見た」か「魚(えい)の中をイエーがーを見た」(だんだん苦しくなってきた……)と混同してしまうのです。

これが平氣になつたなら、もうすぐあなたは茨城語をしゃべり得る神経を持てるのです。

第4日

単語自体も変化するものが、あります。具体例を一つあげましょう(というより、一つしか知らない) それは、「来る」という単語を、文中では、一段で活用させることです。よくわからない言い方めしますが、一段で活用するということは、つまり、きない、きた、くる、くるとき、ければ、こい(きい)というようにいいます。

例をあげると

こ^こち^きさ^き来る^き時は、納豆も^こ集^め。下^ト

5日目に 文中^{文中}の
やります で「き」

おわり^{おわり}の
で「こ」

というようになります。

第5日

きょうは、文中の高いまぬしま、やります。どういうことか
といふと、「へに」(到達点)、「へき」(対象)といふ所を。
「へき」といふことです。これは、方言としては、よく聞く
ことです。極端にいいますと、「彼^ヒは 佐々^{ササ}に持^て行^け」
が「ささささささも^{って}いけ」となります。まさか、こんな復
い音はしませんが、こういわれて、即座に理解できるよう
なったら、あなたはかなりいばらきな^いいぞとれます。

第6日

きょうは、いんとねえしんと見えましょ。英城のいんと
ねえ(よんは 尾上がり)です。英城の讀聞文風に、
一音半句かな、いふと見えばいいぞと。善なつかしいアド
アド。 そんねあ、いいかけんなこと、いうな。といった興
味になれるのです。(ほんと 中なるみ かな)。

第7日

きょうは、語氣を強く発音することを覚えます。
どういうことかといふと、「きうだ^ッペ」といふところが、「とうだ^ッペ!!」
くらいになると見え山はいいと思います。

ただし、この注意を実行する上では、これが吐きすぐ口誦にならないよう注意しましょう。それからとて、けしかがまごも当編集者は一切責任を負いません。

第8日

きょうは、さとうに、鼻音もしくは鼻濁音にすることがあります。どういうことがどうと、鼻にかけることばと言うことです。こう書くのはせんたんですが、實際には、けっこ難しいのです。具体的に、どうしたらよいかといいますと、こ**とば**の前に「ん」を軽く言うような感じにすればいいと思います。たとえば、「が」が「んが」、また、「だべ」が「んだべ」ついには「ぢゃ」が「んぢゃ」(これは、うきです。やとりだよ。やとり。やとりのあき解説を笑い……)ともかく、これは、難しいので、かんばってみてください。

第9日

さらに、せんにん難しく、抽象的になってしまいます。今日やることは、所や粘って、あいまいにしゃべることです。もう、これは、具体的には、文章には書けません。まあ、ねばねば動員や名産の土地柄ですし、とろりとろりとたれる蝋燭の油を乗せて飛るくらい豪爽な人もいましたし、何よりも農業では、煙草は身を滅しますので、そういうことが影響してくるのがもしれません(ちなみに、根柢は全くありません)だから、蝋燭の油をたれるのを待つて、いろいろな氣を話せばいいと思います。まあ、難しいを、かんぱりましょう。これができれば、荔城館の世界に、ほとんど首までつかります。ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・

第10日 いよいよオーラスです。

今回やることは、語尾につけようかなどと思つた「べ」(べ)を、よく考えて、結局やめられるようにすることです。何がいい悪いのかというと、今まで書かってきたことは、必ずしも、英語の本で常に使わなければならぬものではなく、臨機応変にするものであるということです。ここまでに、あげたことなくさぞ「英語っぽい」ことばを語る手段です。ひとつちに、「英語館」といふも、人によつてかなり違うのも事実です。

要は、ここであげた「特徴」とともに、能動的に語をすることはあります。とにかく、相手に言葉が伝わるようにならなくてはなりません。最近は、「とうじのおはなし」や「管理人のおひなし」という種類の発音練習があります。まあ、これからチャレンジして、明るい英語生活を送りましょう。

ばいりんかる萬歳！

すべひすかあいたのぞ。

表紙のことば。

英語といえば、納豆とせきの油で味が、納豆は「ねじねじ」と書ったので、せきの油は趣味ではないので、水戸の梅一梅干といふ意味の論述など、表紙は梅干しに決まりました。上の隣、せみこ表紙ごうじょうと兔、2、旗引にうぐらやくいは、2を書いた。(うそほいなあ)
一説に、本末一(じゆいにーさしえー旗引)の順序にかけたため、鷲落がつかれて地がどくまた(現にアメの名は鷲にかえりゆ)という語もありますが、ま、かはごたらみです。ほんとです。信じて!! ためか。

えとあ・と・が・き です。

「辞典」に対して、「一つの言語の成長を阻止し、その言語を固定した歴史通の歎かぬものにするため工夫された邪念のこもった文筆にかかる装置」という少し意地悪な解釈もあります。もちろん、これはパンフレットであって、さうむ心配はありませんが、うなづかしいように、考へねばなりません。まあ、この辞典は、そもそも學術的なものを目指した企画ではなく、「新成語の語いには、こんなものがあるんだよ、うらに「新成語にはこういう特徴があるんだよ」ということと、知り、もらおうという企画なのです。だから、この辞典の内容はどうするかは、よくまで、あなたの問題なのです。参考のために、例文などにはかなりのバリエーションがあります。一般的なもの、内輪だけ、ただの語呂あわせ、学生生活の眞実に密着したもの、とどめた最近大学生になまっているアニメ等にあの語まであります。これを読んで、どう使うかは、よくまで、「あなた」自身の問題なのです。(既に販促用などはなし)
がとうござります

「新規」もこれが最後です。今宵限りでおわかれます。